

今後の農政の基本方針について

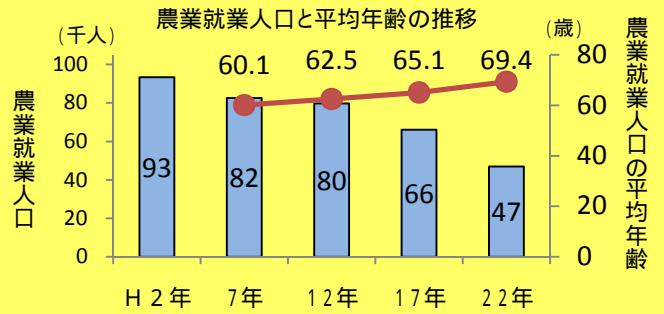
農政部 農政課

本県の現状 (担い手)

農業就業人口の減少と平均年齢の上昇

農業就業人口は46,880人となり、5年前の66,102人と比べて29.1%の減少
 全国順位: 減少率高い方から5位

農業就業人口の平均年齢は69.4歳となり、5年前と比べて4.3歳上昇
 全国順位: 平均年齢高い方から5位

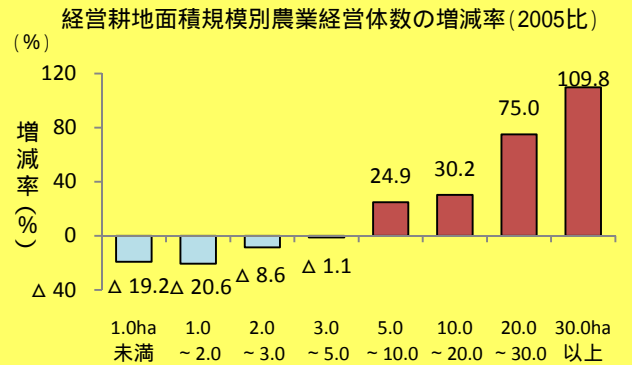


法人化や経営規模の拡大

法人経営体数は496経営体となり、5年前の382経営体から29.8%の増加

経営耕地面積別の農業経営体数は、5年前と比べて5ha以上の階層では規模が大きくなるにしたがって増加率が高くなっている

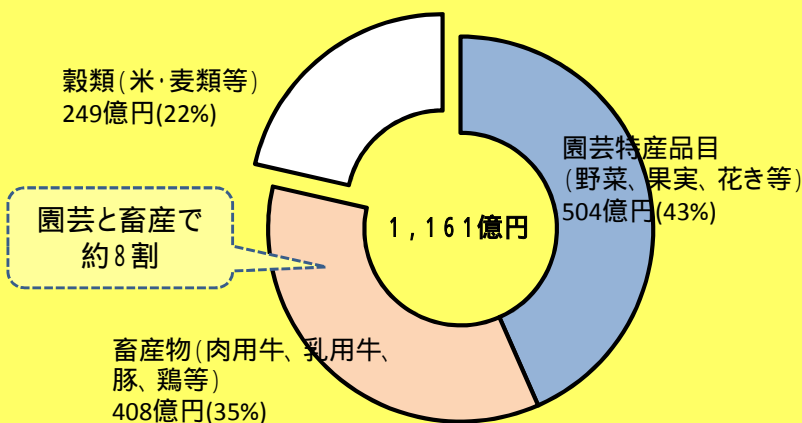
1経営体あたりの経営耕地面積は1.1haとなったが、全国平均の2.2haと比較すると小さい
 全国順位: 高い方から33位



2010年世界農林業センサス(概数値)より (H22.2.1時点調査)

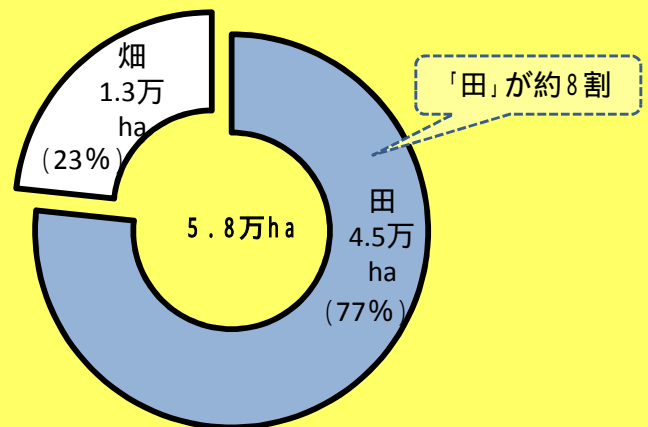
本県の現状 (農業産出額等)

農業産出額(平成21年)



園芸と畜産で農業産出額の約8割を占める
 夏秋トマトや夏ほうれんそう等は市場で高い評価
 飛騨牛や富有柿は香港では輸出が定着化

耕地面積(平成21年)



「田」が耕地面積の約8割を占める
 耕地面積の47%を中山間地域が占める

課題と今後の農業・農村政策の方向性

本県農業・農村を支える担い手の育成・確保	➡	「元気な担い手」づくり
強い農業づくりの推進・攻めの農業の展開	➡	「元気な農業」づくり
地域を支え、環境を守る農村づくり	➡	「元気な農村」づくり

ぎふ農業・農村基本計画(案)の概要

【基本理念】 県民の「食」と県土の「環境」を支える「元気な農業・農村」づくり

【計画期間】 平成23年度から平成27年度

【5つの基本方針】

元気な農業づくり

強い農業づくり

国際化に対応できる高い品質や安全性を持った競争力の高い農畜産物の生産を促進

攻めの農業の展開

国際競争力のある「飛騨牛」「柿」など本県の誇る農畜産物を海外も視野に入れ販路を拡大

農畜産物の付加価値を高めた商品を開発し販売

1 売れる農畜産物づくり

2 戦略的な流通・販売

元気な農業・農村を支える担い手づくり

本県農業を支えるプロの担い手を育成するとともに、農地を集積

担い手不在地域においては、集落営農組織の育成や企業・NPOなど多様な担い手の参入を促進

3 多様な担い手の育成・確保

元気な農村づくり

鳥獣害対策、耕作放棄地の解消推進による集落機能や美しい農村景観を維持

海づくり大会を契機とした水環境への関心を継続、発展

県民や企業・NPO等が農業・農村の機能を理解し、農業・農村を応援する取組を推進

岐阜の宝ものやじまんの原石を活用したモデルコースづくりなど、飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクトと連携した交流を促進

4 魅力ある農村づくり

5 県民みんなで育む農業・農村